

美術部の合宿では毎年、宿舎にカンヅメになって絵の特訓…ではなく、地方でのアート巡りを行っています。

岡山県と、四国の香川県に挟まれた、瀬戸内海の島々では、3年に1度現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」が行われています。今年のように開催のない年でも「ART SETOUCHI」と銘打ち、芸術祭の時に残された主要な作品や施設が見学出来ます。

今回はその中心となる直島を拠点とし、さらに隣の豊島（てしま）にも渡って、点在するアートの施設や作品を三泊四日で巡りました。

東京と変わらない大変な暑さでしたが、生徒たちは海風を浴びながら、難解に思われがちな「現代美術」を新鮮に楽しむことができたようです。

● 1日目

新幹線で岡山へ、そして宇野港からフェリーで美しい瀬戸内海を渡り、拠点となる直島へ到着。二カ所の民宿に分かれ荷物を置いてから、路線バスで「家プロジェクト」の作品群を見られる北部の集落に移動します。このプロジェクトでは古民家にアーティストが手を加え、体験型の「作品」としたものが、狭い地域に散在しています。

歴史ある古い家屋と、ハイテクな仕掛け、ポップな表現、時には哲学的な問いかけが組み合わされた「作品」たちが私達を迎えてくれました。その後民宿のある港町に戻り、穏やかな夕陽の浜辺でひと泳ぎ。

● 2日目

島の南部の、大型の美術施設が集中するアートリゾートとでも言うべき地域を、バスと徒歩で巡りました。建物が完全に地中に埋まり、天窓だけが空に開く展示室が連続する「地中美術館」など、建築自体も実にアートでした。どの施設も外国人観光客が大勢来ていたのが印象的です。宿に戻り、夕日の浜で再び海水浴。夜は、アーティストによる「作品」でもある島唯一の銭湯、「I♡湯」（あいらぶゆ）へ。ポップで怪しげな装飾に圧倒されながら入浴を楽しみました。

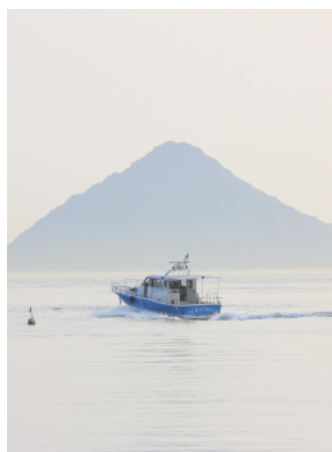
● 3日目

小型の高速艇で隣の豊島に渡り、電動アシスト自転車を借りてアップダウンの激しい地形を汗だくで巡ります。この島にも散在する「家プロジェクト」の数々をたずね、古い豪邸を改造した美術館（豊島横尾館）や、廃工場を利用した作品を訪れました。ラストの目玉は「豊島美術館」。美術館と言っても絵や彫刻が置いてあるわけではなく、建物自体が唯一の作品です。ここは高さの低い巨大なコンクリートのドームに大きな丸い天窓が開けられた空間で、外部から入る光や森の音がドーム内に反射する様子を味わい、床面から沁み出した微量の水滴が滑らかな床面を生き物のように転がって行くのを眺める体験ができます。時間の経つのを忘れるひとときでした。再び高速艇で海を渡りて直島へ帰島後は、南部の浜辺を散策。民宿に戻って庭でごちんまりと花火を行いました。…しかしこの頃には、台風の接近で帰路が危ういことが現実になってきていました。

● 4日目

この日はもともと、四国側に渡って大きな美術館を見学してから帰京の予定でしたが、予定を全て諦め来た道をたどって直ちに帰路につく事を早朝に決定し、岡山経由で帰路を急ぎました。ずっと晴天に恵まれていたのが東京に近づくにつれ風雨が激しくなり、最後は大荒れの天候の中で東京到着、解散となりました。後で聞けば、その後かなり交通の便が乱れたとのこと。四国の美術館に行けなかったのは残念でしたが、結果的に正しい判断だったようです。

（顧問・雨宮）



瀬戸内海



赤かぼちゃ（草間彌生）



李禹煥美術館



直島銭湯「I♡湯」（大竹伸朗）



豊島横尾館（横尾忠則）



家プロジェクトの内部（T・レーベルガー）



豊島美術館（ネット画像より）



お約束の…